

普及センターだより

# くりはら

## 第 132 号



普及活動標語

思いを形にあなたのチャレンジ支えます。  
応援します。農業普及

〒987-2251 栗原市築館藤木 5-1  
TEL 0228-22-9404 (地域農業班)  
0228-22-9437 (先進技術班)  
FAX 0228-22-6144  
E-mail khnokai@pref.miyagi.jp  
URL <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nh-khgsin-n/>

### 宮城県栗原農業改良普及センター



栗原農業未来塾

### くりはらMMM塾「合意形成養成講座」



## 次代を担う経営体と共に農業を動かす

今年の干支は「申」、しかも60年に一度の「丙申（ひのえさる）」にあたるという。

諸説ありますが、「これまでの頑張りが形となって評価される」、或いは「あやふやかなことにけじめがつく」など、色んな意味で変革の年とされ、何かしら時代が動くと言われてます。

変革と言えば、昨年10月に環太平洋パートナーシップ（TPP）協定交渉が大筋合意し、実現すれば関税削減等による長期的な影響が懸念され、農業産出額の9割を米と畜産で占める栗原地域の農業にとっては、今後大きな影響を受けることは間違いのないであろう。さらに、平成30年からは行政による米の生産数量目標配分の見直しなどもあり、不安は増すばかりです。

とはいえ、振り返るとこれまでも大なり小なり常に変革の環境下で経営努力を行い、今日に至っていることは事実であり、その間、農業従事者の減少と高齢化、担い手不足等に歯止めがかからないのもまた事実です。従って、このままの状態が続くと「明

日の栗原農業の未来は見えて来ない」と危惧されます。

栗原地域の農業の維持発展のためには、将来ともに農業を担う農業者の確保が急務です。そのためには、今後の農業を支える認定農業者の力が必要です。認定農業者の経営発展が栗原農業を牽引することは勿論のこと、地域の農業者を巻き込みながら今後の農業の在り方を早急に模索する中心的役割を担うことが期待されます。

普及センターとしても、「次代の栗原地域の農業を担う経営体の育成」を今後5カ年間の最重点課題に位置づけ、経営の法人化・規模拡大・多角化・高度化などの普及活動に取り組みます。

そして、敢えて変革にチャレンジするため常に認定農業者、関係機関と協働し、「丙申」の云われのように時代を動かす原動力となり、それが実を結び姿を創造して行きたい。

部長兼栗原農業改良普及センター所長  
守屋 明 良

## もっと儲かる農業を目指す～

# 「くりはらMMN塾」

「くりはらMMN（Mもっと Mもうかる N農業の略）塾」は、管内の農業経営体のさらなる発展に寄与する各種研修会を体系的に企画・運営し、農業経営体間の仲間づくりを目的として、平成25年度から3カ年にわたり、普及センターのプロジェクト活動として取り組み、これまでに延べ20コース、45講座を開催し、延べ1,186名の方に受講していただきました。

主な講座の1つ目は平成25・26年度に開催した農業経営コース「マネジメント講座」です。受講者が社長となり、盤上のゲーム形式で数年分の経営をシミュレーションし、経営戦略の大枠を学ぶことができるもので、自己資本をどこまで伸ばせるか、利益を最大限上げるためにどうするかなどについて、夜遅くまで受講者同士が議論を深めながら取り組んでいました。「ゲーム感覚で経営戦略を疑似体験できる内容は、実際の経営に大いに役立つ」との意見が聞かれ、有意義だったという感想が多く寄せられました。



平成27年度開催 農業法人支援コース

2つ目は平成26年度に開催した女性起業支援コース「プチ起業セミナー」です。同コースの「企画力・事業計画策定養成講座」および「プレゼンテーション養成講座」を受講した後に、各自の事業計画「ドリームプラン」を発表する講座でした。5名の女性農業者が独創的なドリームプランを発表し、講師から助言をもらって新たな気づきがあったり、互いの発表を真剣に聴いて学び合ったりと大変有意義な講座となりました。

3つ目は毎年度開催している「農業簿記基礎講座」および「パソコン農業簿記講座」です。「農業簿記基礎講座」で手書きの振替伝票を用いて複式簿記の基礎を学び、「パソコン農業簿記講座」でソリマチソフトによる簿記記帳を学びました。また、各自の具体的な入力について別途「パソコン農業簿記実践講座」を設けて個別指導を行いました。青色申告ができるようになった受講者もあり、個別指導により日頃の記帳の悩みの解決や経営分析など経営改善へのお手伝いことができました。



「パソコン農業簿記講座」

## 栗原地域産地戦略プランの策定

県では、平成28年度から5カ年間の強い園芸特産産地づくりを目指し、基本方針の「みやぎ園芸特産振興戦略プラン」の見直しを進めており、栗原管内でも栗原市や栗っこ農協等と協力して「栗原地域産地戦略プラン」を策定しましたので、園芸作物についてその概要を紹介します。

栗原の園芸生産者は水稻との複合経営が多く、水稻との労働力の競合、高齢化・兼業化による担い手不足、販売価格の低迷、燃油・資材等の価格高騰などの問題を抱え、新規栽培者や担い手の育成・確保、省力・低コスト化、販売力の強化などによる産地づくりが課題となっています。

野菜では、いちご、きゅうり、トマト、ほうれんそう、ねぎ、そらまめ、なばな類、キャベツ、えだまめ、ピーマン類、かぼちゃ、だいこん、スナップエンドウ、ズッキーニ、水耕野菜の15品目を重点振興品目に

定め、指定産地のきゅうりや農業法人の養液栽培、集落営農組織等へのズッキーニなど転作野菜の導入について、各種施策により関係機関が協力して産地化を進めます。

花きでは、一迫地区等の輪ぎく、スプレーぎく、若柳・金成地区の花壇用苗物類の3品目を重点振興品目として、施設や省エネルギー機器等の導入による安定生産を支援します。

果樹では、金成・高清水地区等のりんご、若柳・築館地区等のブルーベリー等の2品目を重点振興品目として、新品種の導入や加工品の開発等、売上増加へ向けた取り組みを支援します。

こうした種々の取組みにより、地域の特性を活かした園芸特産産地の強化を図ることが「栗原地域産地戦略プラン」の狙いです。

# 「次年度の稲作に向けて」

平成27年の作況指数：103  
10a 当たり収量：県北部 547 kg  
宮城県平均 1 等米比率：82.8%

## 1 気象と生育の概況

栗原管内の田植盛期は平年より 2 日早い 5 月 13 日で、田植後は高温多照となり、活着は良好でした。6 月も気温が高い状態が続いたため、初期生育は順調でした。

7 月から 8 月上旬まで、高温多照で推移したため、生育は早まり、管内の出穂期は平年より 8 日早い 7 月 28 日になりました。

その後、8 月上旬から 9 月上旬は曇りや雨の日が多く、気温は平年を下回りました。出穂の早いほ場の登熟はおおむね順調に進みましたが、晩生品種や直播栽培のほ場では、ゆるやかでした。

収穫間近の 9 月 10～11 日の豪雨では、浸冠水したほ場があり、管内の刈取盛期は、平年並の 9 月 30 日となりました。

## 2 生育調査ほの収量構成要素

- ㎡当穂数：478本（平年より多い）
- ㎡当籾数：317百粒（平年より多い）
- 玄米干粒重：22.7g（平年より小さい）
- 精玄米重：1.7mm：616kg/10a（平年並）、  
1.9mm：578kg/10a（平年並～やや低い）
- 一穂籾数：66.2粒（平年より少ない）
- 登熟歩合：86.0%（平年より高い）



## 3 平成27年の課題と次年度の対策

### 1) 土づくり・施肥管理

古川農業試験場によると、県内生育調査ほの葉色値は、幼穂形成期までは平年並でそれ以降は低くなりましたが、安定した収量・品質が得られる適正籾数（ひとめぼれ：㎡当たり総籾数28,000粒以上30,000粒未満）を確保できました。

しかし、幼穂形成期から減数分裂期に期待葉色値を下回ったほ場では、籾数は適正籾数より少なくなり、さらに穂揃期以降の葉色が低下すると、白未熟粒の割合が適正籾数のほ場より高く、玄米の品質が低下しました。

管内生育調査ほの㎡あたり籾数は28,000～35,000粒で、ほ場によって差がありました。適正な籾数を確保するため、ほ場の地力を加味した上で、必要以上に窒素を控えず、葉色を極端に低下させない肥培管理を行いましょう。また、有機物や土づくり資材の施用により、地力の維持に努めましょう。

### 2) 水管理

平成27年は高温多照に経過したため、有効茎数の確保や幼穂の伸長は平年より早くなりましたが、中干しは例年どおりの時期に実施されたほ場が多かったようです。

稲の生育に応じた水管理の実施や低温時の深水管理等、気象に対応した水管理を実施しましょう。

### 3) 雑草対策

管内では、ノビエ、イヌホタルイ、クログワイ、オモダカ等の残草が確認されました。

田植以降、高温多照となり、平成26年と同様にノビエよりもイヌホタルイの葉齢進展が早い傾向となりました。そのため、ノビエの葉齢に合わせて一発剤を処理するとやや処理時期が遅かった

可能性が考えられます。

除草剤の効果を最大限に発揮させるためには、畦塗りによる漏水防止や、丁寧な代かきを行い、ほ場条件を整えることが大切です。

また、雑草の残草状況に応じて、除草剤を選択しましょう。クログワイ、オモダカ等は、体系処理を実施すると、より効果的に防除することができます。

### 効果の高い成分

- イヌホタルイ：プロモブチド、クロメプロップ、ベンゾビシクロン、シメトリン、MCPB 等
- オモダカ：ピラゾレート、ベンゾフェナップ、ピラソキシフェン、ピラクロニル 等

### 4) 病虫害防除

#### ①斑点米カメムシ類

主な加害種であるアカスジカスミカメが好む雑草（イヌホタルイ、ノビエ）の残草が多く見られました。イヌホタルイ多発生水田では、1 回目の薬剤散布時期を出穂始～穂揃期に早めましょう。

#### ②いもち病

葉いもちの感染好適日の出現は少ない状況でしたが、山間部や直播栽培等の一部で、葉いもちや穂いもちの発生が見られました。

箱施用剤を使用しない移植栽培や直播栽培では、葉いもちの感染好適日の出現状況等の情報に留意して、水面施用剤等による防除を実施しましょう

#### ③紋枯病

県内全般的に発生量が多く、管内では被害程度は低いものの、発生が確認されているので、発生状況に応じた防除対策を実施しましょう。

# トピックス

## 受賞おめでとうございます!

### みやぎまるごと フェスティバル2015

平成27年10月17・18日に開催された「みやぎまるごとフェスティバル2015」の農林水産物・花き品評会の受賞者を紹介します。

#### 宮城県農林水産物品評会受賞者

品名	受賞名	受賞者氏名(敬称略)	地区
ねぎ	農林水産省生産局長賞	片倉 栄 治	瀬 峰
水稻(うるち玄米)	公益社団法人 みやぎ農業振興公社理事長賞	nano悠久農産 株式会社	栗 駒
きゅうり	宮城県知事賞 (3等)	長 井 隆	栗 駒
トマト	宮城県知事賞 (3等)	有限会社 サンアグリしわひめ	志波姫
ズッキーニ	宮城県知事賞 (3等)	三 上 和 利	高清水
パプリカ	宮城県知事賞 (3等)	株式会社 ベジ・ドリーム栗原	高清水



農林水産省生産局長賞を受賞した片倉氏

#### 酪農共進会



#### 宮城県花き品評会受賞者

品名	受賞名	受賞者氏名(敬称略)	地区
その他切り花	銀賞	白 鳥 幸 彦	一 迫
ハボタン	銀賞	千 田 千代寿	金 成
シクラメン	銀賞	千 田 滋 紀	金 成

平成27年10月23日から10月26日の4日間、北海道で開催された第14回全日本ホルスタイン共進会にて、県代表として志波姫の酪農家伊藤紀彦さんの出品牛「スペシャル アイオーン フロスト」が2等賞5席を受賞されました。

#### 栗原市生活研究グループ連絡協議会

### 「ルールガイド講習会」

栗原市内の女性農業者が組織している栗原市生活研究グループ連絡協議会が、昨年11月2日に志波姫地区の「この花さくや姫プラザ」を会場にルールガイド講習会を実施しました。

この講習会は栗原の暮らし・農の技を地域の達人から学び、技術の伝承や農村生活の充実化につなげる目的で毎年秋に開催されています。

今年は、会員28人が参加し、雪印メグミルクからの講師の指導のもと、米やかぼちゃなど栗原産食材と牛乳・乳製品を使用した「さけるチーズのタコライス」、「かぼちゃのカレースープ」、「はちみつとレモンのレアヨーグルト」の3品の調理実習を行い、全員で料理を試食しました。試食では「新しく知った味だけどどの料理も美味しい」「手軽に作れるので驚いた」といった感想が聞かれました。

今回のルールガイド講習会で学んだ料理・地域食材活用技術は、後日各地区協議会での講習会で多くの会員に伝達されています。



調理実習の様子

#### 栗原4Hクラブ

### 「ササニシキプロジェクト」活動報告



消費者と一緒に稲刈り作業を行う4Hクラブ員

栗原4Hクラブは、栗原地域の農業を担う農業青年が集まり、自己研さんと仲間づくりを目的とした団体です。

‘ササニシキ’は食味が良好で、かつて宮城県の主力品種でしたが、冷害に弱く栽培管理が難しいため生産量が大きく減少しました。しかし今でも寿司用などその味に根強い人気があることから、栗原での生産を増やすため、栗原4Hクラブでプロジェクトを立ち上げました。

田植えや収穫作業には農作業体験を希望する仙台の消費者が参加し、4Hクラブ会員が田植機やコンバインの操作を熱心に教えました。

また、10月中旬には「みやぎまるごとフェスティバル」の会場で新米の試食会とアンケート調査を行いました。消費者の生の声を聞く良い機会となりササニシキのPRにも繋がりました。

農業後継者同士の情報交換や仲間作りをしたい方など、4Hクラブに興味のある方は、普及センターまで連絡をお願いします。

農地中間管理事業を活用しましょう!!